

【問題提起】第1分科会

医療と福祉の現状をふまえ、社会のあり方を考える ～すべての地域で保障される生存権の保障をめざして～

社会保障改革関連法はじめ、健康・医療戦略推進法の制定など、政府のすすめる社会保障の一体改悪は、日本の医療と社会保障を変質させつつあります。「権利としての社会保障」を否定し、「金で買う社会保障」に変え、医療を「新しい産業の柱」にしようとしています。

現場では、医師・看護師・介護職員の不足、劣悪な労働条件の改善がすすんでおらず、地域では、必要な医療・介護が受けられない状況が広がっています。また、東日本大震災の被災地対策は、依然、不十分な状況となっています。

こうした中で、医療過疎と呼ばれる地域で住民のいのちを守ろうとする取り組み、住民の生存権を守る取り組み、地域の医療ネットワークを充実させる取り組み、各地で開催されている健康まつり、病院統廃合とのたたかい、医療を守るキャラバン行動など、地域医療を守ろう、医師・看護師・介護職員を増やそうと、さまざまな実践が全国ですすすんでいます。昨年も、多くのレポートをいただき、全国の交流と学びが行われました。

このような観点にたち、本分科会では職場での実践を持ち寄り、また地域で展開されている医療・福祉を守り発展させる運動の教訓などについて討論を深めたいと思います。主要なテーマは下記のとおりですが、職場と地域の医療・介護に関わるレポートをたくさんお寄せください。

- ① 無料低額診療など、現場から見た医療や介護保険制度の問題点や改善運動の取り組み
- ② 公的病院を守り充実させる運動など、地域医療を守る取り組みと地域住民運動の到達と課題
- ③ 医療懇談会やアンケート活動など、医療・介護改善の取り組み
- ④ 地域で行われている社会保障改善の取り組み
- ⑤ 東日本大震災が医療や看護・介護に与えた影響と復旧・改善の取り組み
- ⑥ 住民のいのちと暮らしを支える地域実践の取り組み